



体育話題提供授業 協議会記録(第3学年)

成果

◎補助運動

- ・音楽を用いた準備運動が良かった。
- ・短なわが得意・不得意を問わず、楽しくサーキットに取り組んでいた。
- ・補助運動の動きが主運動に繋がっていた。

◎やってみタイム

- ・全体で共有した動きに挑戦したり、発展させたりする児童が多かった。
- ・短なわがあまり得意ではない児童もペアの児童と一緒にさまざまな動きを取り入れていた。

◎はなしタイム

- ・動きを見せながら伝え合うことで、さまざまな跳び方に挑戦していた。
- ・友達が見付けた跳び方を試すような教師の声掛けが良かった。
- ・やったことのない動きに挑戦できるようになっていた。

◎まとめ・その他

- ・振り返りの視点が明確だった。
- ・児童の運動時間がとても長く確保されていた。(28分30秒)

課題&疑問

◎準備運動・補助運動

- ・補助運動にゲーム性を取り入れてみてはどうか。
- ・サーキットの種類を増やしてはどうか。

◎達成規準

- ・跳ぶ回数や人数といったゴールを設定することで、「できた」という実感が得られたのではないかな。
- ・「良い動き」の基準を明確にすることで、あまり得意でない児童も、意欲的に取り組めたのではないかな。
- ・「個人で跳ぶ」→「集団で達成する課題」へと変えていくと、達成感が生まれる。

◎振り返り・学習カード

- ・振り返りで取り組んだ動きに加えて、やってみてどうだったのかも書くと、次につながるのではないかな。
- ・「ぴょんぴょんランドマップ」を児童一人ひとりがもつことで、動きの組み合わせのヒントとして活用できたのではないかな。
- ・グループ同士の紹介があってもよい。

＜授業者自評＞

- ・学習面や運動面で、得意・不得意が生じやすい子供たちだったが、どの子も楽しく学ぶことができた。
- ・あえてグループを設定しないことで、のびのびと活動する姿が見られた。

☆「勉強になった!」ポイント☆

得意・不得意に差が生じやすい短なわの学習において、技ではなく、新しい動きを見付けていくような活動は、子供たちにとっても新鮮だったのではないだろうか。さらに、新しい跳び方(動き)に名前をつけたり、「ぴょんぴょんランドマップ」に跳び方を分類したりすることで、意欲的に活動できる工夫もあった。運動を広げることを目的とする中学年の体づくり運動であるが、個人的な活動に絞らず、集団で達成できるような目標を明確に設定することで、より「できた」という満足感を得られる学習になるのだと感じられた。

指導・講評

☆【音にも注目！】合わせようとする意識

体づくり運動の目標は、中学年では「動きを広げる」、高学年では「動きの質を高める」である。動きを広げたり、質を高めたりするためには、自分のペースじゃないものに合わせようとする姿勢が大事である。合わせようという意識をもつように指導することで、自然と動きが広がっていく。

例えば…

- ・友達との足音 → 同じペースで跳ぶことができる。
- ・周囲の音（拍のわかりやすい音楽、手拍子など）
→ さまざまなリズムで跳ぶことができる。

☆【個から集団へ】活動人数を広げる！

集団的達成によって、児童の世界を広げていく学びが大切である。個人の活動だと思われがちな短なわの学習も、集団でないと達成できない課題を設定することができる。個人で「できた！」と感じるだけでなく、みんなで協力して取り組むことで、達成感や満足感を強く感じることができるだろう。

今回の話題提供授業のように、はじめは動きの視点を明確にして、一人ひとりが考えた動きをやってみる。その後、集団で達成するための規準を設定していくことで、「ゴール（目標）に向けてトライしよう！」「目標まであと〜くらいだ！」と見通しをもって、学習に取り組むことができる。自分の動きや考えを深めていくことだけが、運動の質を高めるのではなく、周囲と関わり、同じ目標に向かって、活動していくことが児童の世界を広げ、運動の質を高めていくことにつながるのである。

キラリと光る付箋

- ・やったみタイムで運動が苦手そうな児童が友達と笑顔で短縄をとんでいた。授業後に「楽しかった」と言っていた。
- ・全体で友達の動きを共有した後は、前より活発に運動していた。運動量が増えた。
- ・準備運動はリズムに合わせて動いたり、縄を使って筋肉を伸ばしたりするのもよかった。
- ・はなしタイムで、短縄が苦手そうな子も友達に説明してもらって、他のとび方に挑戦しているのがよかった。
- ・うまくとべない子へのアドバイスが優しい。お互いが“笑顔”なのがよかった。
- ・「少し頑張ればみんなできる」の開発というテーマだったので、グループ全員で取り組めていてよかった。

今年度の話題提供授業は、今回の授業が最後です。一年間を通して、音楽を活用することで授業の流れがよくなることや自己の課題をどのようにもたせ振り返ると「できた」を感じることで児童がふえるのか、低学年からの系統的な指導などの成果や課題が見えてきました。それぞれの学年の成果と課題が「研究のまとめの会」に提案されて、来年の校内研究に生かされるとよいと思います。